

琉球大学学術リポジトリ

心房細動に対するカテーテルアブレーションにおける fluoroscopy image integration module 導入前後の放射線被ばくと手技時間の比較

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): Radiation exposure, Procedure time, Atrial fibrillation, Pulmonary vein isolation, cavotricuspid isthmus 作成者: 矢島, 真知子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002018038

(別紙様式第 7 号)




論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	矢島 真知子
論文審査委員	審査日	令和 3 年 10 月 20 日	
	主査教授	植田 真一郎	
	副査教授	中村 幸志	
	副査教授	石内 勝吾	
(論文題目)			
Comparing radiation exposure and procedure time before and after a fluoroscopy image integration module installation for atrial fibrillation ablation (心房細動に対するカテーテルアブレーションにおける fluoroscopy image integration module 導入前後の放射線被ばくと手技時間の比較)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 背景と目的：心房細動に対するカテーテルアブレーション(ABL)は複雑な手技であり、透視を必要とする場面が多いため、手技時間と放射線被ばくを減らすことが必要である。			
2. 研究内容：本研究では、2018年4月から2020年10月の間で琉球大学病院においてABLを施行した連続236名を対象に fluoroscopy image integration module (IIM)導入前後における心房細動に対するABLの手技時間と透視時間、照射線量を観察後ろ向きに、比較検討した。心房細動に対するABLを施行した患者はIIM導入前81名、導入後67名であった。この内、追加のABLを必要とした患者を除いて、心房細動に対して肺静脈隔離と下大静脈-三尖弁輪間峡部ブロックラインを作成したIIM導入前の68名をnon-IIM群として、IIM導入後の56名をIIM群とした。			
3. 研究成果の意義と学術的水準：左房マッピング時間、シース挿入後からABL開始までの時間は両群間に有意差を示さなかったが、肺静脈隔離時間と合計ABL時間、入退室時間がIIM群で有意に短縮された(p<0.05)。また、IIM群で肺静脈隔離透視時間と肺静脈隔離照射線量は有意に減少した(p<0.05)。下大静脈-三尖弁輪間峡部ブロックライン作成においては、透視時間は有意差を示さなかったが(p=0.17)、照射線量は有意に減少した(p<0.05)。心房細動に対するABLにおいてIIMの使用は手技時間を短縮させ、放射線被ばくを軽減させることを示した。本研究での統計手法や考察等は大学院研究に求められる学問水準に達しており、同時に実臨床においても有益となる研究結果を示していた。			
以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第8号)

最終試験結果の要旨

報告番号	*課程博第	号	氏名	矢島 真知子
論文審査委員	審査日	令和 3年 10月 20日		
	主査教授	梶田 真一郎		
	副査教授	中村 幸志		
	副査教授	石内 勝彦		
(最終試験結果の要旨)				
最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の件について確認した。				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 提出論文の内容、意義について十分に把握していること 2. 研究の背景、目的と方法について熟知していること 3. 研究の結果について正しく理解していること 4. 関連する国内外の研究を良く把握していること 5. 研究成果の展望について確かな見識を有していること 				
審査の結果、これらに関連する質問に対して十分満足する回答が得られたため、本学大学院博士課程を修了するに値すると判断し、最終試験は合格とした。				

備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。

2 *印は記入しないこと。